

平成29年度北海道公立大学法人札幌医科大学の業務実績に関する評価結果の概要

1 業務実績の評価について

業務実績に関する評価は、地方独立行政法人法第78条の2の規定に基づき、北海道公立大学法人札幌医科大学（以下「法人」という。）から提出のあった各事業年度における業務実績について、知事の附属機関である北海道地方独立行政法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行うこととなっている。

2 評価方針と方法

- (1) 道が定めた中期目標と法人が作成した中期計画に基づき定めた平成29年度計画の実施状況について評価することを基本方針としている。
- (2) 評価の方法は、「全体評価」と「項目別評価」とし、法人から提出のあった年度計画に係る業務実績及び自己評価について、評価委員会によるヒアリングを実施し、総合的に判断の上、評価した。

3 評価結果

(1) 全体評価

平成29年度業務実績報告書の自己点検・評価を踏まえ、業務の実施状況を確認したところ、全106項目のうちA評価（達成度9割以上）以上となった項目は103項目（97.2%）となっており、おおむね順調に進んでいるものと認められる。

(2) 項目別評価

項 目	評 価					V	IV	III	II	I
	計	S	A	B	C	特筆すべき進捗状況にある	順調に進んでいる (全てS・A)	概ね順調に進んでいる (S・Aが概ね9割以上)	やや遅れている (S・Aが概ね9割未満)	重大な改善事項がある
分野										
(1) 教 育	32	0	30	2	0			○(93.8%)		
(2) 研 究	7	0	7	0	0		○(100%)			
(3) 附属病院	11	1	10	0	0		○(100%)			
(4) 社会貢献	28	0	27	1	0			○(96.4%)		
(5) 運 営	3	0	3	0	0		○(100%)			
(6) 組織及び業務	4	0	4	0	0		○(100%)			
(7) 財 務	1	0	1	0	0		○(100%)			
(8) 外部研究資金等	3	0	3	0	0		○(100%)			
(9) 経費の効率的執行	2	0	2	0	0		○(100%)			
(10) 資産の運用管理	1	0	1	0	0		○(100%)			
(11) 評価の充実	2	0	2	0	0		○(100%)			
(12) 情報公開等	2	1	1	0	0		○(100%)			
(13) 施設設備の整備等	3	0	3	0	0		○(100%)			
(14) 安全管理その他	7	0	7	0	0		○(100%)			
合 計	106	2	101	3	0	全体：おおむね順調に進んでいる（97.2%）				

S：上回って実施している A：十分に実施している B：十分に実施していない C：実施していない

※（ ）はS・Aの全体に占める割合

(3) 主な取組

ア 教育について

教育については、札幌医科大学卒業生の道内定着率を高めるために平成25年度から取り組んできた入試形態の改善や、道内在住の学生等を対象とした進学相談会等の入試広報活動を積極的に行ったことにより、平成24年度に44%まで低下した一般入試における道内出身者の合格者比率が平成29年度では過去最高水準の74.7%と高い効果が出たこと、また、国家試験について、医師国家試験合格率が目標値には達しなかったものの、すべての職種において、合格率が全国平均を上回り、特に看護師国家試験は看護系大学で全国1位となる15年連続合格率100%を達成した。

イ 研究について

研究については、平成29年10月に脊髄損傷（亜急性期）のデータ解析を終了したほか、脊髄損傷（慢性期）、脳卒中（慢性期）、脳損傷（慢性期：脳卒中以外）及び認知症の治験について、IRB（臨床研究審査委員会）の承認を得るなど、先進的な研究を推進した。

ウ 附属病院について

附属病院については、新たに脊髄損傷（慢性期）、脳卒中（慢性期）、脳損傷（慢性期：脳卒中以外）及び認知症を対象とした治験について、PMDA（（独）医薬品医療機器総合機構）に治験計画の届出を行うとともに、順次治験を開始するなど、先進的な研究に寄与した。

また、臨床研修・医師キャリア支援センターにおいては、平成30年度から開始される新専門医制度の円滑な導入に向けて、初期臨床研修プログラムの見直しや初期臨床研修医を対象としたホームページでの情報発信など積極的な広報活動を行うとともに、女性医師等が働きやすい環境を推進するためのセミナーの開催など就労支援に関する取組を進めるなど、卒後医師のキャリアパスの支援に取り組んだ。

エ 社会貢献について

社会貢献については、本道の地域医療提供体制の確保に向け、道や関係機関と連携し、地域からの要請に基づき地域の医療機関に医師派遣を行ったほか、分娩体制の確保に関して、道立江差病院への産科周産期医師の常駐化に向けた取組に加えて、新たに小樽協会病院と「北後志地域における周産期医療の確保に関する協定」を締結するなど地域医療に貢献した。

オ 財務について

財務については、道からの運営費交付金について、中期目標の目標値である前年度比1.0%縮減を達成したことに加え、診療収入やその他自己収入の確保に努めるなど財務内容の改善に努めた。

(4) 改善すべき指摘事項

医学部にとって重要な指標となる医師国家試験合格率について、2カ年にわたり、自ら設定した目標値を下回っていることから、目標達成に向けて、より一層、学修の支援の強化等に取り組むことが望ましい。

また、医師国家試験合格率低下の分析等を含め、今後の大学運営に関して、情報分析・政策分析がますます重要となると考えられることから、IR(Institutional Research)のより積極的な活用を期待する。

4 評価委員会（公立大学部会）の審議状況

- ・平成30年8月1日 法人に対するヒアリング
- ・平成30年8月22日 評価結果の審議、決定